

113 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (16)

テーマ：新しい共同体に向かって「その必要と意味」

鄭俊坤教授
(2025. 01. 02)

要 旨

中国文化大学 113 学年度ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座の第 16 回目は、ユーラシア財団 (from Asia) 首席研究員の鄭俊坤先生による「新しい共同体に向かって「その必要と意味」」と題する講演である。鄭先生は、ユーラシア財団の活動目的について、政治的・経済的な争いを解消し、教育を通じて財団の理念を明らかにすることで、世界平和を目指すことだと述べている。

世界の人々は個人として共同体から離れることができないため、社会秩序は調和によって維持され続けなければならない。そのため、私たちは共同体の過去と現在を理解し、未来の世界を想像する必要がある。全世界のすべての人々にとって、Covid-19 のパンデミックは恐怖、苦痛、不安をもたらした。また、戦争の問題に直面した際にも、世界中の人々がかつてないほどの苦しみや無力感を共有している。現在、情報技術を通じて情報の共有が可能となり、世界中の人々が瞬時に同じ情報を手にすることができるようになった。これは、人類がグローバルな共有の規模に入り、新たな価値を全員で共有する方向へ進んでいることを意味している。

したがって、「所有」と「関係」という二つの観点から、人類のさまざまな活動について考えてみよう。「所有」とは、人間の要求や欲望を満たすために、また技術や文明の発展のために、自然科学と企業や国家が結び付き、その結果、活動は激化した。人間は「所有」だけでは生きられない存在でもある。「関係」とは、人間は社会的存在として共同体の中で生きるものであり、そこには秩序や調和が必要である。「所有」と「関係」の不均衡は人類に不幸を齎し、共同体の崩壊を招くものであり、世界では「関係」よりも「所有」が優先される傾向にあ

る。

どうすれば両者の均衡が保てるのであろうか。「所有」の発展は、もう誰にも止めることはできない。だとすれば関係をレベルアップさせる必要がある。そのためには個人の能力だけでは限界があり、家族や他の人々の協力が求められ、想像力が必要になる。これが想像の共同体である。

鄭先生は日本の映画を例に挙げて説明した。三人家族の中に、高校教師の父親、母親、そして高校生の娘がいるが、食事の際、三人は会話を交わすことなく、それぞれがスマホに夢中になっている。父親は毎日出勤前に馴染みの喫茶店で注文をして新聞を読み、その後職場に向かう生活を送っていた。ある日、喫茶店の店員がこの父親が頻繁に物を忘れていくことに気づき、彼が認知症を患っていることを知り、積極的に気遣いを示した。しかし、父親は当初、店員の助言を気に留めなかったが、症状が続くにつれて、問題が深刻であることに気づいた。そして、失意の中で仕事を辞める決断をした。しかし、父親は妻や娘からの関心や配慮を得ることができず、大きな失望を感じた。病を抱える中で家族との間に口論が絶えない状況が続いた。

もし最小単位の共同体としての『家』の概念で考えると、この家庭はまさに『崩壊した共同体』といえる。鄭先生はさらに、このような現象が日本や韓国では特殊なものではなく、ほとんど一般的な状況となっていることを説明している。このことから、人類の基礎的な共同体が徐々に崩壊しつつある現状がうかがえ、私たちに深い考察や反省、改善の必要性を示している。

鄭先生はまた、最近の AI 技術の発展が世界中の人々の関心を集めていることを指摘している。しかし、AI を利用する際には、社会全体が遵守すべき法律や規則を制定する必要があり、それによって社会秩序が調和されることが可能になると述べている。

私たちが感情を通じて家族を思いやり、世話をし、家族として接しながら小さな共同体を築き、その範囲を徐々に拡大して地域社会、学校、さらには社会全体の共同体へと発展させ、安定的で持続可能な関係を築き調和を実現することこそ、財団の目的である。それが財団の設定した目標を達成することに他ならな

い。

鄭先生は最後に、世界がどのように変化しようとも、人類が生き延びる上で最も重要な価値と力は「共感」と「信頼」であると強調している。人文学の領域で議論される倫理、宗教、道徳といった思想や行動は、調和のとれた共同体の構築と密接に関連している。安定し調和の取れた社会秩序があってこそ、未来の共同体の安定的な発展が可能となる。皆様と共にこの目標を目指して努力していきたいと思っている。

中国語要旨・まとめ 徐興慶

日本語翻訳 葉淑華

2025.01.03